「ダンスと子ども」に関する問題

—データーベースによる文献検索—

頭 川 昭 子・藤 村 都 子*

Problems in "Dance and the Child"

—by surveying bibliography in a database—

ZUKAWA Akiko, FUJIMURA Miyako*

The purpose of this study was to clarify problems of "dance and the child" by surveying bibliography in a database. The problems were solved through analyzing 266 bibliography as raw data which were selected from both subjects of "dance (6, 295)" and "child (13, 096)" in "Sports Information Resource Center" statistically. In order to analyze the data, items of decade, types, key words and levels of the bibliography were used, and percentages and significant differences of the numbers were calculated from those. Also, the titles and contents were examined for defining the problems. As the results, the following inferences were derived;

1. It was found that the numbers of key words of education, programs, the kinds of dance, and handicapped were more than those of the other key words, and problems in those key words had tended to be discussed complexly with each characteristic since 1960's. This may suggest that recent researches of "dance & the child" tended to increase in interdisciplinary.
2. It was found that the numbers of "basic" in levels of the bibliography were shown to be much more than those of "advanced" in that. Educational problems tended to be much in "basic" than the other ploblems in serial-articles and books, while psychological problems tended to be much in "advanced" than the other problems in theses and serial-articles.
3. It was found that the numbers of creative dance and modern dance, and folk dance and ethnic dance as "the kinds of dance" were over half in those. However, it was found that the numbers of aerobic dance, ballet and break dance tended to increase in 1980's. Also, it was found that opposite problems of effects of dance and treating injuries in dance were discussed in relationships with the kinds of dance. It suggested that appropriate contents and methods of dance need keenly for growing and development of children.

Key words : Dance, Child, Statistics, Bibliography, Database, SIRC

---

*横浜創英短期大学
Yokohama Soei Junior College

Ⅰ．緒言

「ダンスと子ども」に関する問題は，保育園・幼稚園，学校などの一般児童や心身障害児，専門的なダンスの養成機関で学ぶ子ども達の，ダンスの学習・指導内容，指導方法，指導者，学習効果などの教育的問題，子どものダンス技能や心身の成長や発達との関連，子どもを取り巻く社会的な環境などに関する問題があげられる。舞踊学において実践を通して得られる問題は，哲学・美学，史学，教育学，心理学，社会学，医学，生理学，物理学，統計学などの分野で取り上げられる。出版物として記録された研究問題や解決方法は，広く多くの人々に伝達されて新たな問題を解明する可能性を持ち，また，時代の推移と共に変化する問題の質や量の内容や問題間の関連を推察する手掛かりを与える資料ともなり得る。

本研究では，「ダンスと子ども」に内在する問題を，コンピューターに収録された多量の文献から得られる情報内容から，統計的解析の手法を用いて推察しようとするものである。文献は時代の人々の興味や関心から生まれ，文化や科学技術の発展と共に，その内容や方法にも変化が見られ，時代の諸相を反映するものであると考えられる。本研究で取り扱われる文献は「ダンスと子ども」に関する全ての文献ではないが，米国を中心とした英文で書かれた文献，あるいは英文抄録を掲載する文献を収録したデーターベースから，「ダンスと子ども」に関する問題の傾向を探り，将来の研究の発展を促し，活用するために行われた。

1．問題の設定

本研究は，データーベースに収録された「ダンスと子ども」に関する文献検索から得られた研究資料を基にして，統計的解析の手法を用いて「ダンスと子ども」に関する諸問題の特徴を推察することを目的として行われた。

この研究は次の問題によって解決される。

1）収録文献の特徴が明確にされる。
2）各年代の文献の特徴が明確にされる。
3）近年の文献の研究内容と方法の特徴が明確にされる。

2．研究の限界

1）本研究の問題は，コンピューターに収録された特定のデーターベースから検索された文献を資料として分析される。
2）本研究の資料は，統計解析の手法を用いて分析することにより解決される。

3．研究の意義

本研究の意義は，「ダンスと子ども」に関する問題を探究するために，データーベースに収録された多量の文献を検索し，文献の出版年代，文献タイプ，文献レベル，キーワード，題名，抄録などから，統計解析の手法を用いて解明しようとするところに特徴がある。文献から得られた研究の諸問題から，ダンスの文化的側面の問題を推察し，ダンスが子どもの成長・発達にどのように貢献できるかを考慮することが可能であり，将来の研究課題の開発のためにも貢献できると考えられる。

Ⅱ．研究方法

1．資　料

コンピューターによる文献検索のために，カナダのシルバー・プラター社から発行された，SIRC（Sports Information Resource Center）注[1]のデーターベースが用いられた。1975年から1992年に収録された情報から，検索語の“dance”（6,295件）と“child”（13,096件）の両者の検索から619件が得られ，「ダンスと子ども」の内容に該当する266件が採用された。

SIRC の情報は，題名，著者名，団体著者名，雑誌名，情報源(単行書など)，会議名，注記，シリーズ，出版年，使用言語，原著の使用言語，資料のタイプ（monograph-book, thesis, book-analytic, serial-article, microform, video-tape など），レベル（basic, intermediate, advanced に分類），ディスクリプタ，サブジェクト，抄録，ドキュメント番号，出版国，呼び出し番号，更新年月などの項目で構成されている。

注[1] Sports Information Resource Center, CANADA, Silver Platter 社：情報源は2,000種以上のスポーツ関連雑誌から収録され，単行書，書評，学位論文などからの文献が収録されている。収録件数260,000，1975-1992.

2．資料の処理

得られた資料を基に，文献の出版年，文献レベル，文献タイプ，キーワードが数量的に求められた。文献タイプは，資料のタイプを中心に，情報

Table 1　The numbers of "key words" of bibliography

key words	numbers (%)
1 : education (teaching)	152 (27.34)
2 : dance program	91 (16.37)
3 : the kinds of dance	61 (12.05)
4 : handicapped (mental & body)	47 (8.45)
5 : psychology	37 (6.65)
6 : development	31 (5.58)
7 : philosophy	26 (4.68)
8 : training & physical fitness	20 (3.60)
9 : therapy & rehabilitation	19 (3.42)
10 : medicine & injury	14 (2.52)
11 : sociology	13 (2.34)
12 : measurement	10 (1.80)
13 : others	29 (5.22)
total	556 (100.00)

13 : others (administration 2, bibliography 1, biography 1, biomecanics 2, catalog 1, choreography 3, equipment 4, experiment 1, film 1, history 2, notation 2, nutrition 2, physiology 6, report 1, and story 1)

源，雑誌名，会議名，注記などが参照され，単行書，会議録，学位論文，定期刊行物の4項目に分類された。また，キーワードは，ディスクリプタとして記載された用語を中心にして，サブジェクト・ヘディング，題名，抄録などが参考にされ，13項目に分類された（Table 1参照）。

得られた数値から，出版年代，文献タイプ，文献レベル，キーワードなどの相互の関連，キーワード間の関連などが，パーセントや有意差検定などの統計解析の手法を用いて分析され，「ダンスと子ども」に関する問題が考察された。更に，近年の研究の題名や抄録は，主要なキーワードとの関連で検討され，それらの研究内容や方法からも問題が推察された。

Ⅲ．研究結果とその考察

1．収録文献の特徴

1）文献の年代別件数

「ダンスと子ども」に関する全文献266件の各年代別件数差は，各年代の出現数の出現年の平均値で表された。1960年代以前に比べて70年代以降の文献数は多量に増加し，60年代の19件（平均2.71）と70年代の103件（平均10.30）を比較すると約5倍の文献数が見られ，出現年の平均値でも約3倍の文献量が見られた。しかし，70年代以降では，70年代の文献数は最高量に達したが，80年代，90年代と徐々に減少する傾向が見られた。70年代以降の増加は，コンピューターでのデーター収集状況とも関連があると考えられるが，文献量では70年代を境界線として推測される（Fig. 1参照）。

2）文献タイプ

文献タイプは，4項目に分類された。定期刊

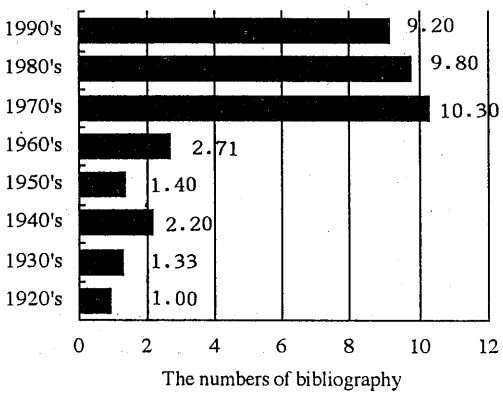
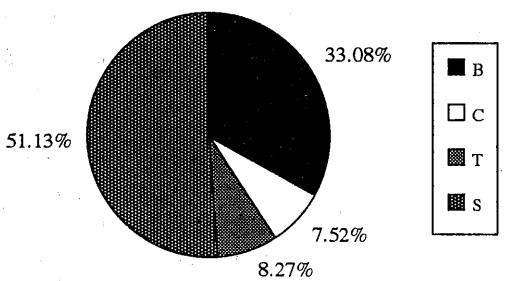


Fig. 1　The mean numbers per year of bibliography in each decade



Note ; the right ride down alphabets stand for "types" of bibliogrophy
(sec ; v. Note 2 in Table 5)

Fig. 2　The percentages of "types" of bibliography

行物は51.13パーセントで最も多く，次いで単行書は33.08パーセント，学位論文は8.27パーセント，会議録は7.52パーセントの順に見られた。会議録と学位論文の関連を除いて各々の関連に有意差が見られた。定期刊行物と単行書で80パーセント以上を占め，これらは主要な文献タイプであると言える（Fig. 2参照）。

3）キーワード

キーワードは研究内容や方法を探るための重要な要素となる用語であり，本研究では13項目に分類された。教育（指導を含む）の項目は27.34パーセントで最も多く，他の項目との有意差が見られた。次いでプログラムは16.37パーセント，ダンスの種類は12.05パーセント，ハンディキャップドは8.45パーセントで多く見られ，これらは平均値以上の数値を表していた（Table 1参照）。

その中のダンスの種類では，創作ダンス・モダンダンスが39.71パーセント（内，モダンダンス3件）で最も多く，次いで民俗舞踊・民族舞踊が25.00パーセント（内，民族舞踊3件）エアロビックダンスが14.71パーセント，バレエが10.29パーセント，ブレイクダンスが7.35パーセントの順に多く見られた（Fig. 3参照）。

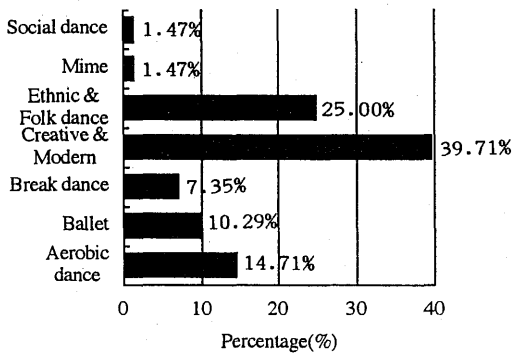


Fig. 3 The percentages of "the kinds of dance" of bibliography

これらのダンスの種類と他のキーワードとの関連では，創作ダンス・モダンダンスや民俗舞踊・民族舞踊と教育の項目間の関連が最も高く，次にエアロビックダンスやバレエとトレーニング・フィットネスの項目間，ブレイクダンスと医学の項目間の関連が高く見られた。また，創作ダンス・モダンダンスは，プログラム，心

Table 2 The relationships between "the kinds of dance" and "key words" of bibliography

	1	2	4	5	6	7	8	8	10	11	12	13
A	3	5	2	2	1	0	8	1	1	0	2	2*
B	2	2	0	0	0	0	4*	1	2	0	0	2*
C	0	0	0	0	0	0	0	0	5*	0	1	0
D	22*	8*	5*	7*	3*	4*	0	2*	0	0	3*	1
E	10*	4	0	0	0	0	0	0	0	2*	0	0
total	34	14	5	7	3	4	4	3	7	2	4	3

* :the most numbers in each "kind of dance" and each "key word"

Note 1;the first side numbers stand for the numbers of "key words" (see;v. Table 1)

Note 2;the first down alphabets stand for the alphabets of "the kinds of dance";A:aerobic dance, B:ballet, C:break dance, D:creative & modern dance, and E:folk & ethnic dance

Table 3　The relationships between "levels" and "key words" of bibliography

	Basic (%)	Intermediate (%)	Advanced (%)	χ^2 test
1	97 (35.93)	40 (23.81)	10 (11.90)	***
2	59 (21.85)	23 (13.69)	9 (10.71)	***
3	31 (11.48)	20 (11.90)	14 (16.67)	*
4	21 (7.78)	16 (9.52)	10 (11.90)	
5	10 (3.70)	12 (7.14)	14 (16.67)	
6	10 (3.70)	12 (7.14)	6 (7.14)	
7	12 (4.44)	7 (4.17)	3 (3.57)	
8	7 (2.59)	8 (4.76)	5 (5.95)	
9	9 (3.33)	6 (3.57)	3 (3.57)	
10	1 (0.37)	10 (5.95)	3 (3.57)	**
11	2 (0.74)	5 (2.98)	3 (3.57)	
12	0 (0.00)	6 (3.57)	4 (4.76)	
13	11 (4.07)	3 (1.79)	0 (0.00)	***
total	270 (99.98)	168 (99.99)	84 (99.98)	

***: $p < 0.001$　　**: $p < 0.01$　　*: $p < 0.05$

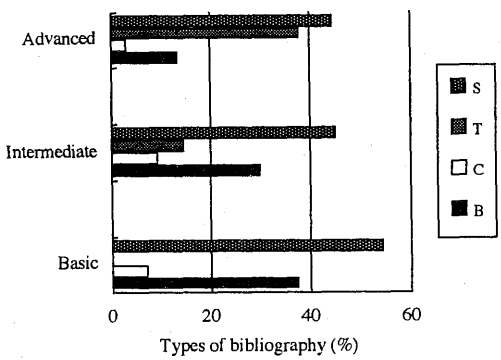
Note; the first down numbers stand for the numbers of "key words" (see; v. Table 1)

理学，ハンディキャップなど多くのキーワードとの関連が見られた（Table 2 参照）。

以上のことは，各々の異なるダンスの種類の持つ問題の特徴を表していると言える。

4）文献のレベル

全文献266件には3段階の難易度が付けられ，"basic"156件（59％），"Intermediate"73件（27％），"advanced"30件（11％），無記7件が見られた。更に，文献のレベルとキーワードとの関連を見ると，"basic"では教育の項目が35.93パーセントで最も多く，"advanced"ではダンスの種類と心理学の項目が16.67パーセントで最も多く見られ，各レベルの項目間に有意差が見られた。また，レベル間の有意差は教育，プログラム，ダンスの種類，医学などの項目に見られ，医学の項目は"intermediate"，他の3項目は"basic"に多く見られた。心理学の項目ではレベル間での有意差は見られなかったが"advanced"では数量的に多く見られたのが特徴であった（Table 3 参照）。



Note ; the right side down alphabets stand for "types" of bibliography
(see ; v. Note 2 in Table 5)

Fig. 4　The relationships between "levels" and "types" of bibliography

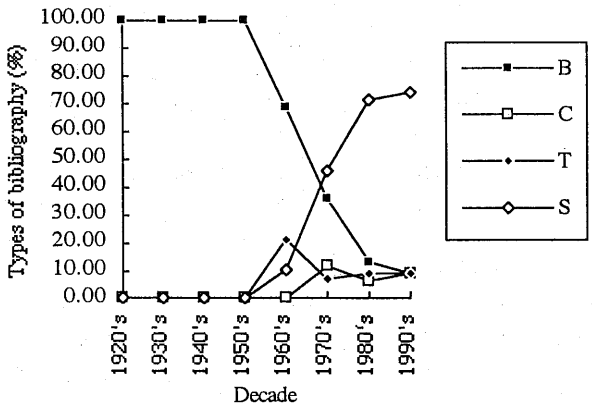
文献レベルと文献タイプとの関連では，全レベルで定期刊行物が一番多く見られ，その中でも“basic”は54.88パーセントで一番多く見られた。次に“advanced”では学位論文が37.93パーセントで一番多く，単行書は“basic”が37.81パーセント，“intermediate”が30.14パーセントで多く見られた（Fig. 4参照）。

以上のことから，文献のレベルでは“basic”が一番多く，“intermediate”を加えると80パーセント以上を示し，“advanced”は10パーセントと一番少なく見られた。各レベルの特徴は，“basic”では教育的な問題で定期刊行物や単行書が多く，“advanced”では心理学的な問題で定期刊行物や学位論文が多く見られたと言える。

2．年代毎の文献の特徴

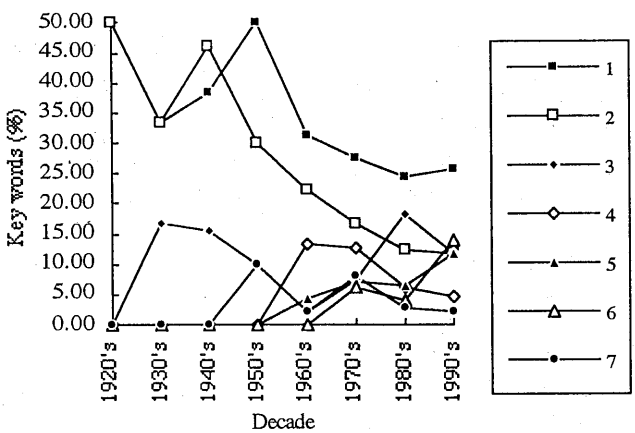
1）年代毎の文献タイプ

1920年代から50年代にかけては，単行書がほ



Note ; the right side down alphabets stand for “types” of bibliography
(see ; v. Note 2 in Table 5)

Fig. 5　The characteristics of “types” of bibliography in each decade



Note ; the right side down numbers stand for “key words”
(see ; v. Table 1)

Fig. 6　The characteristics of “key words” of bibliography in each decade

とんどであったが，60年代では学位論文や定期刊行物が少し加わり，70年代以降では単行書より定期刊行物が多く見られるようになり，会議録も見られるようになった。80年代以降では70パーセント以上が定期刊行物であった（Fig. 5参照）。

これらのことから，1960年代以前は単行書の時代，70年代は単行書から定期刊行物への移行期，80年代は定期刊行物の時代と推測できる。

2）年代毎のキーワード

1920年代から50年代にかけて，教育やプログラムに関する項目が80パーセント以上見られたが，60年代ではハンディキャップドなどの項目が少し増加し，1970年代以降は，哲学，心理学，発達などの項目が増加し，80年代ではダンスの種類が70年代の2倍以上に増加し，トレーニング・フィットネスや医学的な項目が多く加えられるようになり，90年代では1992年までであるが発達や心理学的な項目が多く見られた（Fig. 6参照）。

また，1文献に対するキーワード数は年代毎に差異が見られ，1960年代以降では2.17語で60年代以前の1.35語に比べて多く，研究分野の複合が多く見られたと言える。

これらのことから各年代の研究内容や方法に特徴が見られたが，教育やプログラムに関する問題は，いずれの時代においても高い関心を得ていると言える。また，近年では研究分野も多くなり学際的な研究が増加したと言える。

年代毎のダンスの種類の特徴を見ると，70年代と80年代では創作ダンス・モダンダンスが多く，80年代では民俗舞踊・民族舞踊にエアロビックダンス，バレエ，ブレイクダンスが加わり，近年のダンスの種類の増加を表していると考えられる。また民俗舞踊・民族舞踊は1930年代から少数であるが各年代にみられ，伝統的なダンスに対する関心の高さを見ることができる（Table 4参照）。

Table 4　The characteristics of "the kinds of dance" of bibliography in each decade

decades	A	B	C	D	E
1920's	0	0	0	0	0
1930's	0	0	0	0	1*
1940's	0	0	0	0	1*
1950's	0	0	0	0	1*
1960's	0	0	0	0	1*
1970's	0	2	0	10*	3
1980's	8*	5*	5*	14*	10*
1990's	2	0	0	3*	0
total	10	7	5	27	17

*: the most numbers in each "kind of dance" and each decade
Note; the first side alphabets stand for the alphabets of "the kinds of dance" (see; v. Note 2 in Table 2)

3．近年の文献内容と方法の特徴

全文献266件の中から平均値以上を示した，教育，プログラム，ダンスの種類，ハンディキャップドなどのキーワードを主要項目として，それらの4項目と文献タイプとの関連やキーワード間の関連は，数量的に解釈され，文献量の増加した70年代以降に発行された"advanced"に所属する文献の題名や抄録などから，その内容や方法は次のように解釈された（Table 3参照）。

1）全体的傾向

教育，プログラム，ダンスの種類，ハンディキャップドの項目と文献タイプとの関連において，定期刊行物ではダンスの種類が63.95パーセント，教育が53.29パーセントで多く，プログラムでは単行書が46.15パーセントで一番多く，ハンディキャップドは単行書と定期刊行物において38.30パーセントで高く見られ，各々の特徴が見られた。また，これらの4項目間の関連は相互に高く見られた（Table 5参照）。

この主要4項目と他の項目との関連では，教育（152件）と心理学（20件），哲学（14件），発達（13件）の関連，プログラム（91件）と心理学（12件），発達（11件）との関連，ダンスの種類（85件）と心理学（15件），トレーニング・フィットネス（12件）の関連，ハンディキャップド（47件）とセラピー・リハビリテーション（17件），心理学（14件）などの関連が高く見られた（Table 6参照）。

また，"advanced"に属するすべての文献は1970年代以降に出版された文献であった。

2）項目毎の傾向

Table 5 The relationships between "key words" and "types" of bibliography

types	1	2	3	4
B	47 (30.92)	42 (46.15)	16 (18.60)	18 (38.30)
C	13 (8.55)	8 (8.79)	4 (4.65)	0 (0.00)
T	11 (7.24)	7 (7.69)	11 (12.79)	11 (23.40)
S	81 (53.29)	34 (37.36)	55 (63.95)	18 (38.30)
total	152(100.00)	91 (99.99)	86(99.99)	47(100.00)
χ^2 test	***	***	***	

*** :$p < 0.001$

Note 1;the first side numbers stand for the numbers of "key words" (see;v. Table 1)

Note 2;the first down alphabets stand for the alphabets of "types";B:book, C:conference proceeding, T:thesis, and S:serial-article

Table 6 The relationships between "key words" of bibliography

key words	1	2	3	4
1	(152)			
2	64*	(91)		
3	38*	19	(68)	
4	19	21*	7	(47)
5	20*	12	9	14
6	13*	11	4	0
7	14*	7	4	0
8	7	8	12*	3
9	5	3	3	17*
10	0	0	8*	0
11	3*	1	2	2
12	4	2	6*	2
13	13*	9	6	1

* :the most numbers in each "key word"

Note;the first down numbers and side numbers stand for the numbers of "key words" (see;v. Table 1)

(1)教育の項目において，“advanced”は10件みられ，9件までは主要項目中の他の3項目と関連が高く見られ，特にダンスの種類の中の創作ダンス・モダンダンスとの関連が高く見られた。更に，心理学との関連が5件，次いで発達と哲学との関連が高く見られた。例としては，子どものためのダンスの指導内容に関する研究[10]や教育方法の比較方法を用いた創作ダンスの運動能力や精神に及ぼす効果の研究などが見られた[11]。

(2)プログラムの項目において，“advanced”は9件見られ，7件までは主要項目中の他の3項目との関連が高く見られ，更に，心理学，発達，フィットネスなどの項目との関連が高く見られた。例として，小学生のための8週間の指導単位のエアロビックダンスのプログラム・デザインと評価の研究[7]や精神障害児のための創作ダンスの効果の研究[3]などが見られた。

(3)ダンスの種類の項目において，“advanced”は14件見られ，8件までが主要項目の3項目との関連が見られたが，心理学との関連が7件で最も高く，その中でも心理学と創作ダンスとの関連が6件で最も高く見られた。トレーニング・フィットネスや医学的な研究では，エアロビックダンス，バレエ，ブレイクダンスに関連して，ダンスの効果とそれに反する損傷などの対比的な問題が議論されていた。例として，創作ダンスの目的内容の観察，インタビュー，質問，文献での研究[2]，モダンダンス作品に対する幼稚園児の言語的伝達や評価に関する研究[13]，ベネズェラの発展途上地域でのゲームとしての儀式の中のダンスと子ども，男女の役割，社会化などの研究[12]バレエの訓練を受けた男児の人体測定学的な研究[9]，子どものバレエの学習・指導過程における不十分な身体調整での過度の技術要求が，将来に及ぼす重大な身体的損傷を起こす可能性への警告を示した研究[1]，エアロビック・トレーニングの効果の研究[4]，ブレイクダンスでの怪我による背痛とはき気に関する事例研究[8]などが見られた。

(4)ハンディキャップドの項目において，“advanced”は10件あり，内9件は精神的障害の問題であった。主要項目の他の3項目との関連が高く見られたが，心理学との関連が7件で一番高く，次いで発達，測定，療育・治療などの内容が見られた。例として，精神的障害児の平衡性向上のための創作ダンスと運動探究の2方法でのプログラムの検討とその効果の研究[5]，知的障害児に自信をもたせるためのダンス・プログラムの効果の研究[6]などが見られた。

以上のことから，1970年代以降の「ダンスと子ども」に関する問題は，教育的，プログラム，ダンスの種類，ハンディキャップドなどの問題に関して多く取り上げられ，それらは複合的に取り上げられていた。更に，“advanced”の研究では，全文献が1970年代以降に出版され，ダンスの種類や心理学的な問題が多く，創作ダンス・モダンダンスでは心理学との関連が高く，エアロビックダンス，バレエ，ブレイクダンスではダンス効果とそれに反する身体的損傷などが多く取り上げられる傾向が見られ，ダンスの種類の問題点の特徴が推察されたと言える。

4．総　括

1）1970年代以降の文献量は，60年代以前に比べると3倍以上見られ，文献タイプは全体で定期刊行物と単行書が80パーセント以上を示し，定期刊行物の80年代以降の増加が顕著であった。また，1970年代以降の全文献は“advanced”であり，文献レベルにも年代の差異が見られ，近年は複合的な分野での学際的な研究が多く見られた。これらのことから「ダンスと子ども」に関する問題の年代的特徴が見られたといえる。

2）文献内容や方法を表すキーワードでは，教育，プログラム，ダンスの種類，ハンディキャップドなどに関する問題が多く取り上げられ，それらは高い関連を持って議論されていた。特に，教育とプログラムに関する問題は研究年代を越えて高い関心が持たれていたと言える。また，教育と心理学，哲学，発達の関連，

プログラムと心理学，発達の関連，ダンスの種類と心理学，トレーニング・フィットネスの関連，ハンディキャップドとセラピー・リハビリテーション，心理学の関連が高く，それぞれの問題に特徴が見られたと言える。

3）文献のレベルでは，“basic”が一番多く，“advanced”が一番少なく見られたが，“basic”の特徴は教育との関連で定期刊行物や単行書が多く，“advanced”では心理学的関連で定期刊行物や学位論文が多く見られたと言える。

4）ダンスの種類では，創作ダンス・モダンダンス，民俗舞踊・民族舞踊は半数以上を占め，教育との関連で多く議論され，80年代にはエアロビックダンス，バレエ，ブレイクダンスなどのダンスの種類も増加して，ダンスの効果とそれに反する損傷の問題なども議論され，近年の傾向が見られたと言える。このことは，異なるダンスの持つ特徴を表していると言えるが，子どもの成長と発達を考慮した適切なダンスの学習・指導内容の必要性を示唆していると考えられる。

5）近年の研究内容と方法での特徴は，1960年代以降から教育，プログラム，ダンスの種類，ハンディキャップドなどの主要な問題は，心理学，発達，セラピー・リハビリテーションとの関連で多く研究されている。加えて，70年代では哲学，80年代ではトレーニング・フィットネス，医学的な問題が加わるようになり，近年の研究分野の広がりと学際的な研究の増加を示したと言える。更に，“advanced”の研究では，ダンスの効果とそれに反する身体的損傷などが多く取り上げられる傾向が見られたと言える。

Ⅳ．結果と展望

本研究は，データーベースに収録された「ダンスと子ども」に関する文献検索から得られた資料を基にして，統計的解析の手法を用いて「ダンスと子ども」に関する諸問題の特徴を推察することを目的として行われた。データーベースはカナダのシルバープラター社から発行されたSIRCが用いられ，検索語の“dance”と“child”の両者から得られた266件の文献が資料として採用された。得られた資料をもとに，年代，文献のタイプ，キーワード，文献のレベルなどが統計的解析の手法で分析された。その結果は次のように推察された。

1．「ダンスと子ども」に関する文献は，1970年代以降を境界線として，数量的に増加し，単行書から定期刊行物の出版物へ移行する傾向が見られる。

2．「ダンスと子ども」に関する研究内容や方法を表すキーワードでは，教育，プログラム，ダンスの種類，ハンディキャップドなどが主要な問題であり，相互に高い関連を持って議論される特徴がみられる。また，時代と共に近年は心理学，発達，哲学，トレーニング・フィットネス，セラピー・リハビリテーション，医学，社会学，測定・評価などの研究分野も加わり，広い範囲の分野での学際的な研究が多くみられる。

3．「ダンスと子ども」の文献レベルには3段階の特徴が見られ，教育的な内容は啓蒙的な定期刊行物や単行書などで示され，心理学的な内容は定期刊行物や学位論文などで示される傾向が見られる。

4．「ダンスの種類と子ども」の問題では，創作ダンス・モダンダンス，民俗舞踊・民族舞踊，エアロビックダンス，バレエ，ブレイクダンスなどの各々のダンスの特徴が問題として示される傾向が見られる。創作ダンス・モダンダンスは教育，プログラム，心理学などの研究分野と関連が高く，エアロビックダンス，バレエ，ブレイクダンスでは，ダンスの効果とそれに反する損傷の問題が議論され，これらは子どもの成長と発達に適切なダンスの学習・指導内容の必要性を示唆していると考えられる。

本研究では文献検索から「ダンスと子ども」に関する問題が検討されたが，検索資料には限界があり，更に多くの資料を加えてこの傾向が確認される必要がある。ダンスを通して子どもの豊かな心身の成長のために，さらに多くの研究が継続され，発展されることが望まれる。

参考資料・文献

1）Abbie Denton, M.(1983): Is poor coordination likely to predispose a dance student to injury. In, Howell, M. L. and Bullock, M. I. (eds.), Physiotherapy in sport, St. Lucia, Qld. : University of Queensland, Dept. of Human Move-

ment Studies, p. 83-88. Refs : 14. (不十分な調整はダンス生徒の損傷の原因である)

2) Ayob, S. (1987) : An examination of purpose concepts in creative dance for children. Thesis (PH. D) U. of Wisconsin-Madison. (子どものための創作ダンスの目的内容の調査)

3) Barnes, C. M. (1983) : Effect of a creative dance program on the perceptual motor performance of trainable mentally retarded children. Thesis (M. A.) Cal. State U. Northrige. (訓練可能な精神障害児の知覚的運動作業の創作ダンスプログラムの効果)

4) Baum, E., Meilinger, K. & Siegried, J. (1986) : Effects of an "aerobic"-training within sports-clubs-groups on children and adults. Deutsche Zeitschrift fuer Sport-medizin (Cologne, FRG) 37(4), Apr., 110-118 Refs : 34. (子どもと大人のスポーツクラブ群の「エアロビック」トレーニングの効果)

5) Boswell, B (1991) : Comparison of two methods of improving dynamic balance of mentally retarded children. Perceptual and motor skills (Missoula, Mont.) 73 (3 Part 1), Dec. 759-964 Refs : 11. (精神障害児の力動的な平衡性を発達させるための2つの方法の比較)

6) Laurence, A. (1990) : The effect of dance on the self-esteem of intellectually disabled children. Thesis (B. Ed. (Hons.)) U. of Sydney. (知的障害児の自信に関するダンスの効果)

7) McIllroy, B. H., Roundy, E. S. & Jacobson, P. C. (1989) : A progressive aerobic program for elementary aged children. The physical educator (Indianapolis, Ind) 46(1), 21-26 Refs : 16 (小学生のための進歩的なエアロビック・プログラム)

8) Moses, J. & Shannon, M. (1985) : Back pain, vomiting after break-dance mishap. Hospital practice (New York) 20 (3), 15 Mar, 100k-100L ; 100P. (ブレイクダンスの怪我後の背痛と吐き気)

9) Pekkarinen, H., Litmane, H. & Mahlamaki, S. (1989) : Physiological profiles of young boys training in ballet. British Journal of sports medicine (Surrey, Eng.) 23 (4), Dec., 245-249 Refs : 55. (バレエにおける少年のトレーニングの生理学的な側面)

10) Raabe, J. L. (1983) : Dance is・・・? : a lecture demonstration for children. Thesis (M. A.) Texas Woman's Univ. (ダンスとは：子どものためのレクチャー・デモンストレーション)

11) Roswal, P. M., Sherrill, C. & Roswal G. M. (1988): A comparison of data based and creative dance pedagogies in teaching mentally retarded youth. Adapted physical activity quarterly (Champaingn, Ill.) 5 (3), Jul., 212-222 Refs : 26 (精神障害児の指導における基礎的資料と創作ダンスの教育比較)

12) Stone, G. P. & Stone, G. I. (1976) : Ritual as game : playing to become a Sanema. Quest 26, p. 28-47. (ゲームとしての儀式：サネマとなるための遊戯)

13) Sutlive, J. L. (1984) : A description of children's verbal responses to a modern dance work in grades kindergarten through six. Thesis (ED. D) U. of Oregon, Eugene, Ore., (6才の幼稚園児のモダンダンス作品への言語的反応の説明)